

ドイツ語 300 番台（力武担当）の授業と成績評価について

1. 教科書はすべてドイツ製であるが、必ず文法的な「ねらい」が定められており、文を読んだり会話をしたりしているうちにおのずと（知らぬ間に）そのねらいに触れるようにできている。教科書は一学期で全部終えることができないので、適宜取舍選択をおこなう。その際重要視することは、多くの受講者が関心を抱きそうなもの、重要な文法事項と定型的表現が含まれていること、現代ドイツのみならずドイツ語圏の国々、さらにドイツ以外の国や地域の事情やそれに対するドイツ語圏の人々の反応などについて広く紹介していること、である。

2. 授業は自発的学習を重視する。しかし、全員が長い文章全部を毎週予習することは現実的でないので、発表希望者を募る。しかし担当しない者も最低限でも文章全体を見ておき、授業中に質問(動詞の不定形、文の主語、代名詞のさすものなど多様)に答えられるようにしておくこと。

3. 成績評価は普通の授業と試験との比率を 5:5 で点数化する。

普通の授業とは 2. に述べたような講読の発表、小問への解答(あたりまえながら)出席状況(30分以上遅刻したり、授業中寝たり、私語しているものにはバッドマークがつく。)を考慮して結果を出す。

4. このクラスではドイツで生活するために必須の表現を身につけることをひとつの課題とする。例：遅刻したが、どう申し開きをするか(電車が遅れた、などの理由を瞬間的にドイツ語で述べられるように普段から訓練する。)

旅行会話集は確かに便利だが、実際の会話に至るまでに瞬間的に何かを言わねばならないことが多い。例：たとえば：ベルリン・ホテル・インターコンティネンタルはどこか、通りがかりの人にきくとする。その際、全く知らない歩行者にいきなり „Können Sie mir bitte zeigen, wo das Hotel InterContinental Berlin ist?“ (ベルリン・ホテル・インターコンティネンタルはどちらでしょうか) 尋ねるだろうか。ふつうは歩行者に „Entschuldigung!“ (すみません!) と声をかけて相手を決めてから道をきくだろう。

このような生活して行く上での、定型会話に先行する一瞬のコトバを完全に丸暗記して、実際に会話をしてもらう。脳裏に焼きつけ、いざという時に訳に立つ表現を身につけること。

5. 本授業では、中学生に戻ったつもりで、各受講生と私との間で交換日記(!)を行う。その際、授業に関する要望や質問を受け付けるが、時々ドイツ語作文をしていただく。

6. このクラスにはティーチングアシスタントが付く。滞独経験があり、ドイツ語も堪能なので、気軽に相談をしたり、会話の相手になってもらうとよい。 以上

P S : 3 年生 4 年生の受講者はこの授業の終了後に私のところへ来てください。就職などの関係で少々配慮する可能性があります。

malte@lang.osaka-u.ac.jp, <http://www.k2r.org/malte/>